

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472301074	事業の開始年月日	平成17年10月1日
		指定年月日	平成17年10月1日
法人名	有限会社 フェルシ		
事業所名	グループホームぼぼ箱根板橋		
所在地	(〒250-0034) 小田原市板橋933-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年11月26日	評価結果 市町村受理日	令和5年4月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの目の前に小田原市の郷土資料館があり、四季折々の花を楽しめる環境に立地しています。ホームでは日課として体操、散歩、歌のレクリレーション等を行い、ご利用者の心身の活性化を図っています。また、厨房職員を配置しており、手作りの食事を提供しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和4年12月16日	評価機関 評価決定日	令和5年4月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
事業所は、箱根登山鉄道の箱根板橋駅から徒歩約10分の閑静な住宅地に立地している。近くには松永記念館や香林寺など、寺院、神社、公園などが点在している。グループホームのほか、訪問介護・通所介護・居宅介護支援事業所などの事業を展開している法人が運営している。

【安心して生活できる医療体制】
利用者全員が、24時間オンコール体制の協力医療機関（内科）をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。歯科衛生士が、月1回来訪し全員の口腔ケアを行い、治療が必要な場合は、歯科医師が訪問診療を行っている。
看護師は、非常勤職員2名が、週2回交代勤務で、利用者の体調管理を行っている。薬は、協力医療機関と提携している薬局の一包化したものを、かかりつけ医が訪問診療時に届けている。

【食事を楽しむことのできる支援】
食事は、法人のメニューを基に手作りに拘り、3食とも非常勤の厨房職員が、食材の購入から調理まで一貫して行っている。食材は、毎日スーパーで購入している他、魚屋から新鮮な海鮮を配達して貰っている。また、砂糖は「きび糖」を使用するなど食材・調味料に拘り、利用者の好みに合わせた料理を提供している。正月のお節や雛祭りのちらし寿司、花見弁当などの行事食を提供している。誕生日会には手作りケーキの他、お稲荷さんなどの好みのものを提供している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームぼぼ箱根板橋
ユニット名	かえで

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して、朝の申し送り時、理念を管理者、職員で復唱する事で理解に向けた働きかけを行っている。	開設時に職員が話し合って策定した事業所の理念「家庭的な雰囲気大切にします」「心身の活性化を目指した環境を作ります」「安心した生活を送れるようお手伝いします」は、事務所に掲示して周知している。また、朝の申し送りでの唱和や、カンファレンスでの確認で職員の理解を深めている。事業所では、理念に基づき、手作りの料理の提供や、身体拘束にならないように、制止をしないケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナウイルス感染症が流行しているため、本来行うべきである、地域のお祭りや自治会の行事がほぼ中止になっている。また、ご入居者が地域のお店に買い物に行ったり等、地域へ出ていく活動も行えていないが、一部のご利用者は認知症カフェへ参加されたりと、徐々にだが地域の方との交流が出来つつある。	大窪自治会に加入して、回覧板で地域の情報を得ている。散歩の時に、地域住民と挨拶して交流している。今年度は、地域のどんど焼きや、地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加して地域と交流している。従来取り組んでいた、地域の避難訓練への参加、事業所の秋祭りへの地域住民の招待、楽器演奏のボランティアや高校生の職業体験の受け入れなどの地域交流は、コロナ禍のため中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月11日に地域の方へ向けた介護相談日を設けていたが、コロナウイルス感染症が流行しているため、現在は中止としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症が流行しているため、地域の方やご家族を招いての、運営推進会議の開催中止している。昨年同様に書面で行っている。	運営推進会議は、各ユニット代表の家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、建物のオーナー、元自治会の副会長をメンバーとして開催していたが、コロナ禍で対面での会議が開催できないため、2か月に1回文書で報告する書面開催としている。会議報告は、メンバーの自宅などに持参して郵便受けに投函している。メンバーからは、ねぎらいや感謝の言葉が寄せられているが、特段の意見や質問は寄せられていない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請代行や生活保護受給者の手続き等の困りごとを相談する機会を設けている。	市の高齢介護課からは、利用者の要介護認定申請代行で市役所を訪問した際や電話連絡で、助言や指導を受けている。生活援護課とは、電話で生活保護受給者の状況に関する情報共有や相談をしている。今年度は、行政から抗原検査キット、防護服、マスクなどの支給を受けた。小田原市グループホーム連絡会に参加して、職員が役員を務めている。会合では、行政から介護保険に関する情報などを得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉によるスピーチロックやご入居者の行動の制止をしないようにしよう。という取り組みを全職員が力を入れて取り組んでいる。 また、玄関は必要により施錠をしているが、ユニット入口常時開錠し、拘束を防いでいる。	事業所は、身体拘束その他の行動制限廃止マニュアルを整備し、身体拘束適正化委員会を3か月に1回、身体拘束廃止に向けた研修を年2回開催している。委員会や研修では、「原因不明のアザ」「利用者の行動を制止する声掛け」などのテーマについて、期間を決めて取り組みや検討を行った後、意見交換している。帰宅願望の強い利用者には、声掛けなどを行い落ち着くまで見守っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待行為は全体に行わないようご入居者の支援に携わっている。カンファレンス等で虐待防止に向けた勉強会を行ったり、原因不明のアザ発見時に、新たに作成したシートを活用し全職員で共有。原因の解明とアザが出来ないように、虐待防止を含め取り組んでいる。	虐待防止のための指針を定め、権利擁護・高齢者虐待防止委員会と、虐待防止に向けた研修を年1回開催している。研修では、虐待に関する自己点検シートで振り返りを行っている。職員は、指針や勉強会で、心理的虐待や介護放棄なども含めた高齢者虐待防止法等について学んでいる。管理者は、不適切なケアについてはカンファレンスで取り上げ、話し合っている。原因不明のアザ発見時に、職員に説明のうえ、廊下にビデオカメラを設置して虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員、管理者は権利擁護に関する研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、ご入居者の様子を伝えまた、ご家族からもご要望を伺うようにしている。 ご家族からの要望は、カンファレンス等で職員に伝えたり、業務連絡に記載し、全職員共有を行っている。	家族の意見・要望は、従来、運営推進会議や面会での来訪時などの機会に把握していたが、コロナ禍で中止などの制約を受けているため、主に電話連絡やメールで把握している。今年の8月に新型コロナウイルスに感染した利用者がいたため、家族の面会も中止していたが、家族から「面会を再開して欲しい」との要望があり、10月から窓越しでの面会を再開した。	コロナ禍で家族から意見・要望を聞く機会が減っています。運営推進会議の報告書や利用者の写真を家族代表だけでなく、全利用者家族に送付するなど、情報提供を強化して、家族が、意見・要望を表明する機会を拡充することが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を開く機会を設け、反映させている	各階の職員全員で、一ヶ月に一度カンファレンスを開催している。その時に職員間での意見交換や各種提案を行った後、現場での勤務に反映をさせている。	職員の意見・提案は、管理者が、日々の会話や、ユニットごとの月1回のカンファレンス、朝の申し送り、個人面談などで聞き出し、運営に反映している。個人面談は、年2回行っている。職員から「グループホームを更に良くするには、家族にファンになってもらうことが重要ではないか」という意見があり、管理者は、従来以上に利用者の様子を家族に伝えられるよう、職員の協力も得て、取り組みを拡充することを検討している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。また、経験年数に応じたステップアップのための研修に参加させている。	管理者は、職員の努力や成果を、法人の役員グループホーム来訪時に説明している。法人では、キャリアシートの自己評価に基づく人事考課制度を採用している。また、介護福祉士、介護支援専門員への資格手当制度を設けている他、介護職員初任者研修など資格取得に関する研修の受講は勤務扱いで、合格した場合、受講料・交通費は法人が補助を行うなど、職員のモチベーションアップに繋げている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行っている研修会や、小田原市の地域密着型施設職員が集まっている連絡が主催する、研修会への参加、当施設の主任が主催する勉強会等を通じて、知識や技術獲得に向けた取り組みを行っている。	事業所は、年間研修計画を策定して計画的な人材育成を行っている。法人は、新入社員研修や、認知症、ハラスメントなどの研修を実施している。事業所では、事故報告、転倒事故対策、感染症などの研修を実施している他、外部研修として資格取得に関する研修や、グループホーム連絡会の研修などの受講を奨励している。新入社員のOJTは、事業所で主任を指導担当として、2か月間実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催する、認知症カフェへの参加、小田原市グループホーム・小規模多機能連絡会が主催するイベント等を通し、同業者や地域の方との交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の様子や表情、言動を注意深くみながら、本人の要望や訴えに耳を傾け、話を聞き共感することで、安心して生活が出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在の本人の状況を確認し、ご家族の不安感や困りごと、要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に居宅サービス等の担当ケアマネジャーに連絡し、状況を確認している。また、入居開始時に、ご家族等に、これまでの生活の様子や、支援していく上での重要なポイント等をお聞きしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、昔の様子や長年の知識や技術をご利用者から教わっている。また、職員とご利用者が共同で何かを行ったり、ご利用者同士が居かし合うことで、一緒に生活する者同士の関係を構築できるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご本人の日々の生活状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどのように提供できるか、ご家族にできること、施設で出来ることを一緒に話し合えるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしているが、現在は新型コロナウイルス感染症の流行のため、ベランダ等で窓越しもしくは網戸越しでの面会とさせて頂いている。 また、手紙や電話の代行を行い、馴染みの関係を継続しやすいよう配慮している。	入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。友人や知人の訪問はないが、電話や手紙の取次ぎ支援は行っている。家族が持参する馴染みの果物やジュースなどの飲料の取次ぎ、化粧水、乳液の購入を支援している。趣味の裁縫を継続している利用者もいる。現在、家族との外出は、通院のみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行うレクリエーションや洗濯物たたみなどの作業を中心に、日中は出来るだけリビングで過ごして頂くよう支援している。また、新聞折りやウェス切り等、一人でやるのが難しい作業に関しては、利用者皆で協力・分担することで協力し合える環境作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族から相談があったときには、守秘義務に配慮しながら支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプラン更新時等に、ご家族から希望を聞いている。また、日常の関わりの中でもご本人の思いを把握すると共に可能な範囲で、本人の意向や希望に沿って支援を行っている。	入居前のアセスメントでは、利用者の当時のケアマネジャーのアセスメント資料や介護計画を参考にしている。職員は、入浴やお茶の時間などの利用者がリラックスする時間を大切にして、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、利用者の表情から推測して支援に繋げている。利用者からはビザや寿司が食べたいといった食べ物に関する要望が多く、対応している。把握した情報は、支援記録で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も起こすと共に、これまでの生活で行ってきた事は、可能な限り継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操、散歩、家事活動等を日課として行っている。一人ひとりの趣味などの把握に努め、また、一人ひとりの身体状態や有する力の把握に努め、自分の事は、出来る限り自身で行うよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスを全職員参加で行っている。ご利用者のケアで気が付いたことを話し合い、時にはご家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。 また、独自で作成したモニタリング用紙を活用し、計画の継続、または変更の必要性を精査し、計画を作成している。	介護計画は、アセスメントとモニタリングを基に、月1回カンファレンスを行い、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。モニタリングは、計画作成担当者が、職員の意見も踏まえて行っている。介護計画は6か月ごとに見直しているが、状態により随時見直している。また、計画のサービス内容を「サービス計画チェック表」に実施の有無を記載して、計画とケアの連動を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿にケアの実施、工夫などを記録し、職員間で共有を行っている。 得た情報を介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、ボランティアを活用していたが、現在、コロナウイルス感染症の流行に伴い、来園をお断りしている。			
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族対応で、かかりつけ医に通院されている。	利用者全員が、24時間オンコール体制の協力医療機関（内科）をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。歯科衛生士が、月1回来訪し全員の口腔ケアを行い、治療が必要な場合は、歯科医師が訪問診療を行っている。診察結果は「訪問診療議事録」で情報共有している。眼科や泌尿器科などの専門医の通院は、家族が付き添っている。通院の受診情報は、家族から職員が開き取り支援記録などに記載して、職員間で情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常で気が付いた情報を看護師に伝え相談している。 看護職員は利用者に対し、必要に応じて診察を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを作成し、ご本人の状態について情報提供を行っている。 急性期が過ぎた段階で速やかに退院が出来るよう、医療機関と連携を図っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看取りについての説明を行っている。 また、重症化した場合や終末期の在り方については、訪問診療医、ご家族、職員とで情報を共有し、支援にあたっている。	入居時に、重要事項説明書の「重症化した場合の対応」「看取りの対応」を説明して、同意を得ている。看取りは、「看取り介護指針」と「看取り介護計画」を説明して、「看取り介護についての同意書」を交わしたうえで開始している。職員が、看取り介護についてのマニュアルに基づき、家族、医療関係者と連携して支援している。今年度は、3件の看取りを行った。看取り後は、職員で振り返りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルが作成されている。緊急時はそれを元に対応。 また、応急時の対応についても行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。 消防署への通報訓練、火災避難誘導訓練、消火訓練を実施した。	事業所は、火災の日中想定避難訓練を年2回実施している他、来年の1月に夜間想定避難訓練を実施する予定である。事業所の避難訓練に地域住民は参加していない。また、従来実施していた地域の避難訓練への職員の参加はコロナ禍で中止している。BCP（事業継続計画）は策定済みで、来年の3月に法人が、BCPの研修を行う予定である。災害用備蓄品はリストを作成し、職員分も含めて食料と飲料水を確保している。カセットコンロなどの熱源も整備している。	新型コロナウイルスの感染状況を考慮のうえ、地域の避難訓練への職員の参加や、事業所の避難訓練への地域住民の参加の働きかけを行い、災害時の地域との協力体制を強化することが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、トイレ、入浴介助時は、プライバシーに配慮するとともに極力肌の露出等がされないようにしながら支援を行っている。	職員は、研修で権利擁護について学んでいる。管理者は、職員の会話や行動で、気になったことは都度指導している。利用者の呼称は、名字に「さん」付けとしている。申し送りは、利用者名ではなくイニシャルで行っている。また、フロアでタブレットにケア記録を入力する場合は、周辺に十分配慮して行っている。また、タブレットやパソコンへのログインは、パスワードで管理して、情報管理の対策を講じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間やおやつなどに、ご利用者の方々からグループホームでの生活の意向を聞いている。 その中で出来ることを提案しながら、ご利用者が選び、決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーティンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。 また、皆が同じペースで動く事は難しいこともあるため、ルーティンの時間をずらす等、柔軟に対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液など希望された時は必要に応じて購入している。 また、ご利用者の希望に合わせて訪問理容室を提供している。 普段の洋服に関しても、着替えの際に、自身で選んだり、決定する事が出来るよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月、花見などその時期にしか召し上がれない旬な食材を提供している。 また、行事やイベントを通して、利用者と職員が、調理や下準備、片づけを一緒に行えるよう取り組んでいる。	食事は、法人のメニューを基に手作りに拘り、3食とも非常勤職員の厨房職員が食材の購入から調理まで一貫して行っている。食材は、毎日スーパーで購入している他、魚屋から新鮮な海鮮を配達してもらっている。利用者は、食器・お盆・テーブル拭きなどを手伝っている。利用者の状況に合わせて、ペースト・刻み食を提供している。お節や雛祭りのちらし寿司、花見弁当などの行事食を提供している。また、テイクアウトのお寿司や、おやつレクリエーションとして、ホットケーキやどら焼きを作って楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスを考慮して提供している。水分は食事以外にも提供し1日の水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自身で行った後、必要に応じて職員が口腔内のチェックと磨き仕上げを行っている。また、1回/月、歯科衛生士による口腔指導を受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録システムで排泄の管理を行っている。一人ひとりに声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。	支援を受けずにトイレで排泄できる利用者が1～2名いる。他の利用者は、ケア記録で把握した排泄パターンに基づく定時誘導や、利用者の様子や仕草に基づく随時誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。誘導の際は小声で話しかけるなど羞恥心に配慮している。夜間は睡眠優先を基本に、定時誘導なども含め個人の特性に合わせて支援している。ポータブルトイレを利用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を行い散歩を日課としている。食事面では、食物繊維の摂取にも心がけている。排泄の状態把握にも努めている。また、体操の中に自然排便を促す動きを取り入れ、自然排便の促しに取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調や希望に合わせて、個別対応を心がけている。	週2回午前入浴を基本としている。午前以外入浴を希望する場合でも、できる限り希望に応じている。入浴を好まない利用者には、無理強いはせず、声掛けを工夫して入浴を促している。体調の悪い利用者などは、身体状況に応じてシャワー浴や足浴、清拭で対応している。利用者は、職員との会話や、柚子湯等を楽しんでいる。また、同性介助も希望があれば対応するなど、入浴を楽しめるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。日中の適度な運動と適度な疲労を通して、安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認すると共に、独自に作成した薬情報表を活用することで、服薬内容の理解に努めている。月初めに体重測定を行い、体重の変化や異常について確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、一人ひとりの状態に合わせて、皆で行っている。一人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活ができるような支援を心がけている。また、時々施設外に出ていくことで、気分転換や楽しみがもてるように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけられるよう、散歩を日課としている。	コロナ禍でも、天気の良い日には車椅子の利用者も一緒に、近くの松永記念館や香林寺まで散歩している。玄関前のベンチや2階のベランダに置いた椅子で、外気浴や日光浴を楽しむ利用者がいる。今年は、香林寺に初詣や花見に出かけた。また、ドライブレクリエーションで、小田原漁港と小田原フラワーガーデンに出かけて、利用者に喜んでもらった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。ある程度の自己管理が可能な場合は、少額の管理は行って頂いている。以前は、購入希望があれば一緒に買い物に出かけていたが、現在、コロナウイルス感染症の影響で、一緒に買い物には行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵送された郵便物の代読を行っている。 携帯電話を持参されている方から、かけ方が分からないと依頼があった時は、通話が出来よう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。 玄関には季節の造花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう心がけている。 また、こまめに換気を行うことで、新鮮な空気を取り入れる事で心地よく過ごせるように支援している。	リビングは、大きな窓で開放感があり、採光もよく明るい。車椅子の動線も確保されている。ホワイトボードに大きく日付や曜日を記載して、見当識に配慮している。温度・湿度管理は、温度・湿度計を参考に職員が床暖房、エアコンと加湿器を調整して行っている。また、1時間に1回換気を行っている。壁には、ハロウィン、クリスマスなどの行事にちなんだ塗り絵や、ドライブなどの行事の時の写真を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが設置しており、ご利用者同士がいつでも交流できるようになっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品を入居時にお持ちいただけるよう、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。	居室には、ベッド、エアコン、照明器具、防災カーテンが備え付けられている。前の利用者から引き継いだタンスを使用している利用者もいる。テレビ、時計、仏壇、カレンダー、家族の写真などの馴染みの品や思い出の品が持ち込まれ、個性豊かな居室になっている。居室担当者が、衣替えや備品の管理を行っている。ポータブルトイレを利用している利用者や、安全対策として、センサーを設置している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場等に手すりを配置し、自立を促すよう配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ぽぽ 箱根板橋

作成日 令和5年4月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	・災害対策	・災害時の地域への 協力を体制を強化する。	1. 事業所の避難訓練への 住民参加の呼びかけ 2. 地域への避難訓練への 職員・利用者の参加。	令和5年4月20日 S 令和5年10月31日
2	7	・運営に関し、 利用者・家族等意見の 反映。	・運営推進会議の 報告書と家族代表 アンケートへの全利用者の 家族に送付すること 小冊子提供の強化を図る。	1. 運営推進会議 開催後、報告書と アンケートの送付に 取り組む。	令和5年4月20日 S 令和5年10月31日
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

